



仮本殿で初の大祭

# 秋季大祭斎行

好天に恵まれ三日間で約12万人が参拝

本年の秋季大祭は、辺津宮仮本殿で初めての斎行となり、舞・献茶の諸儀に特設舞台を設置した異例のものであったが、一昨年より再興した神湊市街地での陸上神幸には、本年も玄海小・中学校の児童・生徒が社会科学習の一環として奉仕し、大祭の三日間は好天に恵まれ平日にもかかわらず、連日大いに賑わいをみせた。

十月一日

みあれ祭(海上・陸上神幸)  
主基地方風俗舞

午前八時半、大島・中津宮で出御祭を斎行。沖津宮と中津宮の御神璽を神輿に奉安、大島小学校の児童約三十名の鼓笛隊を先頭に大島港まで陸上神幸が行われ、沖・中両宮の神輿を御座船にお載せした。



海上神幸 みあれ祭



平成ノ大造営

時満ちて  
道ひらく

## 余滴

去る十月二〜五日、伊勢の神宮において第六十二回式年遷宮「遷御の儀」が行われた。この度の遷宮は全国的に認知度が上がり、本年度の参拝者数は統計以来最高の千三百万人を越えると言われている。また今年の五月には出雲大社にて六十年ぶりの式年遷座が行われた。そして既報の通り当宗像大社では本年九月より本・拜殿の修復に取り掛かっており、来年の十二月には遷座祭を迎える予定である。▼この伊勢の神宮と出雲大社、宗像大社は非常に所縁ある神社である。当大社のご祭神は伊勢の神宮の祭神である天照大御神の御子神であり、出雲大社の大國主神は沖津宮の田心姫神と神縁を結ばれており、出雲大社本殿横には筑紫社として祀られている。▼これらのご祭神は称号をお持ちで、天照大御神を別名「大日靈貴」、大國主神を別名「大己貴」、宗像神を別名「道主貴」と言い、それぞれ「貴」という称号がある。「貴」とは高貴な者という意味があり、この称号がある祭神はこの三神のみである。▼奇しくもこの三神社が続けて遷宮・遷座が行われることに運命めいたものを感じると共に、国家国民の安寧を祈るこの神々に新たな息吹が入り、私たち日本民族の「いのちの甦り」常若の祈りが込められる事となる。これを契機に日本国の蘇りを祈るばかりである。(幹)

神具・装束・授与品



装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980  
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092  
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567





高宮神奈備祭



主基地方風俗舞



浦安舞奉奏

午前九時二十分、大島港出港。港外には波切御幣・大漁旗・紅白吹流し(御手長)で装飾した約一二〇隻の漁船が待機しており二隻の御座船に続いて、船団を組んだ。

一方、辺津宮では午前九時に同出御祭を齋行、同宮の御神霊が神湊港に向われた。

海上神幸(みあれ祭)は、先ず地ノ島・鐘崎方面を目指し

その沖合にて神湊方面に向きを転じ、五月松原を横に望んで進み、御座船は神湊港沖で停船。各奉仕船が御座船を周回し、宗像七浦の各母港へそれぞれ帰途についた。

それを見送った御座船は神湊港に入港。三宮の神輿が一同に会し、神湊の高台にある頓宮(御旅所)へ神幸、頓宮祭が齋行された。



大島小学校鼓笛隊先導

御神幸が再現された。

神湊便局前の御駐輦所で御神霊は御座車に移され、白バイ・消防車に先導されて総社・

辺津宮仮本殿へと御神幸。神門を潜り修復工事に準備も進む本殿を横に、白木の香も薫る仮本殿へ入御し秋季大



陸上神幸

祭一日祭(入御祭)を齋行。高向宮司が祝詞を奏上し、保存会奉仕による主基地方風俗舞が御神前に設けられた特設舞

台で厳かに奉奏され、恙無く祭典は終了した。

十月二日

流鏝馬神事、翁舞

午前八時から神門前の馬場道で流鏝馬神事の奉納が行われ、馬上の射手が地上七段の的に向け、次々と矢を射ると参拝者から盛んな拍手が起こっていた。

午前十一時には二日祭が、福岡県神社庁宗像支部の神職奉幣使、宮地嶽神社の神職奉幣使、氏子奉幣使にも参向いただき齋行された。祭典では喜多流能楽師・梅津忠弘師同社中の奉仕により、能管や鼓の鳴り物に合



辺津宮入御

わせ、能楽「翁舞」が特設舞台で神前に奉奏された。

十月三日

浦安舞

午前十一時より三日祭が齋行、玄海中学校女子生徒による浦安舞が奉納され、十二単を身に纏った舞姫の姿は詰めかけた多くの参拝者を魅了した。終了後、引き続き奉仕神職が高宮・第二宮・第三宮・宗像護国神社の各祭場へ別れ、秋祭りを齋行した。

午後二時からは拝殿で南坊流・二代洗心庵・瀧口宗芳氏以下同社中による献茶祭が齋行され見事な御点前を披露された。

午後六時には、高宮神奈備祭が宮司以下神職・巫女、氏子青年会外の奉仕の下齋行され、浄園の祭場で「悠久舞」が





**第六十二回 神宮式年遷宮遷宮遷宮式齋行**

十月二日午後八時、第六十二回神宮式年遷宮において最も厳重な儀式とされる、皇大神宮(伊勢神宮・内宮)「遷御の儀」が滞り無く齋行され、当大社でも同日、同時刻、宮司以下職員約四十名が参列し遥拝式が行われた。

奉奏されると参列者一同感動の様子であった。この高宮神奈備祭で三日間に亘る秋季大祭は無事に締め括られた。

ここに秋季大祭に御奉仕頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。

**主なる奉仕者御芳名 (敬称略・祭典の順)**

- 宗像大社氏子会
- ◎海上神幸奉仕 (鐘崎) 船長 共進丸 宗岡 謙
- ◎中津宮御座船 第二宮一丸 (大島) 船長 藤島誠治
- ◎中津宮先導船 第三曙丸 (神湊) 船長 古武義成
- ◎中津宮先導船 大栄丸 (津屋崎) 船長 永島 栄
- ◎花火船 仲洋丸 (大島) 船長 宮本敬喜
- ◎報道船 みたけ (大島) 船長 遠藤英樹
- 右を始め海洋神事奉賛会 (会長・権田仁八郎) 参画の宗像漁協・鐘崎漁協等所属の漁協組合の皆様
- ◎陸上神幸奉仕 御座車 西久大運輸倉庫(株) (株)新出光 宗像地区タクシー協会 宗像観光協会 宗像観光協会 宗像市消防団第十一分団 宗像市消防団第十二分団 宗像市消防団第十一分団 宗像市消防団第十二分団 宗像市消防団第十一分団 宗像市消防団第十二分団 宗像市消防団第十一分団 宗像市消防団第十二分団
- ◎大島鼓笛隊奉仕 大島小学校児童 御長手棒持・提灯行列 玄海小学校児童 玄海地区コミュニティ運営協議会 津加計志神社総代 宗像観光協会 宗像・沖ノ島世界遺産市民の会 宗像市 宗像大社氏子青年会
- ◎主基地方風俗舞奉仕 (舞方) 中野久志 松井徳一郎 松井 実 勝紀
- ◎歌方 石津典秀 吉田敏幸 中野正徳、福岡武志 永島卓爾
- ◎流籠馬神事奉仕 世話役 宮木貞彦 奉仕者 眞武孝行、河野 暁 高瀬秀平
- ◎氏子奉幣使 柴田清七(津屋崎地区渡)
- ◎翁舞奉仕 喜多流 梅津忠弘師以下同門下中
- ◎浦安舞奉仕 古藤 唯花、吉井 美沙 山下優希菜、黒石愛里菜
- ◎献茶奉仕 南坊流・二代洗心庵・瀧口宗芳 同社中 高宮神奈備奉仕 宗像大社氏子青年会



氏子奉幣使 柴田清七氏



流籠馬

**献茶祭齋行 表千家々元奉仕**

十月十七日、錦秋の一日を彩る恒例の献茶祭が齋行され、県内はもとより山口・九州各県の同門会員をはじめ日々茶道に勤しむ方々約五〇〇名が参集し、神苑は和服姿の女性達で終日華やかな雰囲気にも包まれた。



献茶とは神仏にお茶をお供えする儀式であり、神郡宗像においても神前に茶を供える献茶祭が催されていたが、表千家家元直々による献茶の儀は、昭和三十七年当時の宗像大社復興期成会々長、出光興産創業者、出光佐三氏の御尽力より始まり、毎年出光家の奉納により齋行されている。茶の道を志す方々にとっては、家元の御手前を間近で拜せる待望の神事である。

当日は、早朝より爽やかな秋晴れとなり、定刻十一時、一鼓を合図に奉仕神職、表千家家元而妙斎千宗左宗匠以下介添えの家元関係者、出光興産株式会社出光昭介

名誉会長、表千家同門会福岡県支部代表他関係者は、被舎にて修祓の後仮本殿へと参進、それぞれ所定の座に着座し、祭典が齋行された。

齋主の祝詞奏上に続き、家元による献茶の儀が執り行われた。仮本殿特設舞台に設けられた風炉前に端坐、切柄杓の手許、袱紗さばきも鮮やかな「動と静」とが見事に調和した淀みない清らかな御前が披露された。仮本殿並びにテント席に参列した大勢の参列者は、家元の御前前を真剣な眼差しで見詰めていた。

しばし静寂の後、点てられた濃茶、薄茶の二服が雅楽の調べが流れる中、神職の手により御神前に奉献された。献茶の儀の後、齋主、家元、出光名誉会長、同門会福岡県支部代表が玉串拝礼を行い、約一時間の祭典は厳肅裡に滞りなく終了した。

献茶祭終了後、参列者は副席が催される儀式殿の「出光席」、齋館の「同門会席」へ参席し、茶席に掲げられた掛軸や茶道具の逸品を鑑賞しながら、至福の一時を楽しんだ。

十月十七日、錦秋の一日を彩る恒例の献茶祭が齋行され、県内はもとより山口・九州各県の同門会員をはじめ日々茶道に勤しむ方々約五〇〇名が参集し、神苑は和服姿の女性達で終日華やかな雰囲気にも包まれた。

献茶とは神仏にお茶をお供えする儀式であり、神郡宗像においても神前に茶を供える献茶祭が催されていたが、表千家家元直々による献茶の儀は、昭和三十七年当時の宗像大社復興期成会々長、出光興産創業者、出光佐三氏の御尽力より始まり、毎年出光家の奉納により齋行されている。茶の道を志す方々にとっては、家元の御手前を間近で拜せる待望の神事である。

当日は、早朝より爽やかな秋晴れとなり、定刻十一時、一鼓を合図に奉仕神職、表千家家元而妙斎千宗左宗匠以下介添えの家元関係者、出光興産株式会社出光昭介



第18回  
**出光興産株式会社  
 中堅社員研修所感**  
 出光興産株式会社 人事部教育課

去る十月七日〜十日の四日  
 間、第十八回中堅社員研修の  
 宗像大社研修を実施させて頂  
 きました。本研修には、日本



大島・中津宮参拝

国内各事業所の社員  
 三十二名、ベトナム、  
 韓国、オーストラリ  
 ア、アメリカ、タイ、  
 インドネシアの駐在  
 社員六名のほか、聴  
 講生として中国の現  
 地事業所の社員一名  
 の総勢三十九名が参  
 加しました。

本研修は、「日常生活と離  
 れた神域に身を置くことで感  
 性を高めること」、「創業者・  
 店主出光佐三が多大な影響を  
 受け、経営の原点とした日本  
 の伝統文化に触れ、その思いを  
 感じ取ること」の二つを目的に  
 継続実施しております。

研修開始に際し、宗像大社  
 で研修をさせて頂くことを御  
 神様に奉告し、研修が実り多  
 きものなることを祈願する  
 研修開始奉告祭を仮本殿で執  
 り行いました。その後、高向  
 宮司より「皆様にとってこの四  
 日間は非日常の生活になると  
 思います。自然との共存、自然

への感謝という神道の  
 基本、日本人の原点を  
 感じ取り、今後の出光、  
 日本の中核を担って頂  
 きたいと思えます。」と  
 講話を頂きました。  
 今回はより深みのあ  
 る研修を目指し、例年  
 より一日多い三泊四日  
 の日程で、神社祭式作  
 法、神宝館見学、第二・  
 三宮・高宮参拝、雅楽・  
 神楽鑑賞、神職の皆様  
 との懇談といった従来の

内容に加え、大島渡島(中津  
 宮・中津宮遙拝所・御嶽神社  
 参拝)、海での禊祓成、葦津権  
 宮司の講話(生きつづける神道  
 の心とかたち)、また、店主の  
 好物であった鶏すきを囲み、  
 神職の皆様との懇親会を実施  
 致しました。

台風の接近のため、日程の  
 大幅な変更を余儀なくされま  
 したが、神職の皆様迅速且  
 つ適切な対応により当初予定  
 していた内容を全うするこ  
 とができました。

研修生全員が初めての経験  
 でしたが、白衣・白袴を着付  
 けると、自然と日常生活から  
 離れた神域に身を置いている  
 という感覚が沸々と湧き上が  
 るようでした。また、研修生  
 からは「鎮魂、禊など非日常の  
 貴重な経験ができた」、「日本  
 の伝統文化である神道を理解  
 できた」、「日本人とは何かを  
 考える機会になった」、「店主  
 の原点に触れ、店主の思いに近  
 づけた」等の感想が寄せられ  
 ました。このように当初の目  
 的は十分に達せられたと考え  
 ております。

研修生に対して懇切丁寧な



台風の接近により弱冠の波立つ中、神湊海岸での禊祓成







第三宮、第三宮での清掃奉仕



神職との班別懇談

ご指導をして頂いた宗像大社の皆様には心より御礼申し上げます。最後に、宗像大社の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。研修の所感とさせていただきます。



研修を終え、神社出発の時



巫女による神楽を鑑賞



とりすきを囲んでの懇親

今年も神郡宗像に菊の季節が到来しました。第四十三回西日本菊花大会(宗像大社菊花会、宗像観光協会共催)が十一月一日に開幕し、境内は多くの菊花で彩られています。この菊花展は、質・量ともに全国屈指の規模を誇り、愛好家が丹精込めて育てた、大輪・盆栽・懸崖・福助・ダルマ作り・古木添え木・洋菊・千輪咲き・一文字作り・菊人形と様々な種類の菊約三千鉢が出品されています。期間中は観菊者、七五三詣での家族連れ等で大いに賑わい、境内では、「菊みくじ」、「喫茶コーナー」(土日限定・勅使館)が開かれ、また菊苗が

### 第43回 神郡に秋の彩り 西日本菊花大会開幕



菊鉢、地域の特産品や軽食の販売も行っております。何かご不明な点がございましたら、緑のジャンパーを着た宗像大社菊花会々員にお気軽にお声掛け下さい。尚、今年の開催期間は、十一月一日と二十一日となっております。是非御参拝下さい。

### 七五三詣のご案内

宗像大神様に生を受けてから今日まで無事に成長出来たことを感謝し将来のご加護を祈願する人生儀礼です。



- ◆年齢 3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児
- ◆期間 11月末迄
- ◆初穂料 1人 5,000円
- ◆授与品 御守、御幣、千歳飴 ほか





時満ちて道ひらく  
足場が生まれ、本格的修復へ

### 造営日記 ②

辺津宮本殿及び拝殿の保存修理が、いよいよ着手された。九月二十日、工事安全祈願祭が、今回の本殿及び拝殿保存修理に携わる業者参列のもと仮本殿にて執り行われ、終了後直ちに現場仮設足場組立作業が始まった。11月初めには本・拝殿が素屋根で覆われる予定である。素屋根工事が終

わると早速、柿葺き屋根の葺替えが行われるが、現在葺替工事を行う業者は柿板製作を進めているところである。工事が愈々本格的になり、参拝の皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解賜りご容赦戴きたい。



### 歌手 平原綾香氏参拝

十月十二日(土)、

「宗像ミアーレ音楽祭」に出演するために、宗像を訪れた歌手の平原綾香さんが当大社を参拝された。

平原さんは午後一時前に当大社に到着すると、仮本殿を参拝され、儀式殿内の便殿、その後、神宝館を拝観された。是非、当大社を参拝したいとの声により、厳しい日程のなか、三十分程の短い滞在時間ではあったものの、由緒など葦津権宮司の案内を熱心に聞かれていた。



自然が猛威を奮い、災害が起こり各地で大きな爪跡を残している。当大社沖ノ島にも、十月八・九日、全国各地を襲った台風二十四号の影響で、大量のゴミが漂着した。このため急遽、十日の沖ノ島勤務交代に併せ職員五名が渡島し、約三時間亘り打ち



### 沖ノ島臨時清掃奉仕

台風により大量のゴミが漂着

寄せられたゴミの清掃奉仕を行った。

一以四方のゴミかご三十個余りを持参し、発泡スチロールや板切れ、外国の文字が入ったプラスチック容器など様々なゴミを収集するも、余りにも大量で全てを持ち帰ることが出来ず、次の勤務交代日、二十日にもゴミかご十数個を持ち帰った。



近年クリーンアップ活動など清掃活動が様々な所で行われ、ゴミの問題がとりだたされてはいるが、沖ノ島に漂着したゴミを目の前に、身を以て深刻な問題であると感じさせられた。

環境を守るためにも、この問題に真剣に取り組んでいかなければならない。

当大社を後にした、平原さんは宗像市政十周年を記念して、宗像ユリックス芝生広場の特設ステージで開催された音楽祭に出演し、約七五〇〇人の前で歌声を披露された。

音楽祭では平原さんの代名詞とも言える、ミリオンセラー曲「Jupiter」など四曲を九州交響楽団の奏でる迫力ある生

演奏の音色に併せ披露し、その美しい歌声に観客は魅了された様子で、最後の曲が終わると盛大な拍手が鳴り響いていた。また、当大社での一時が思い出に残ったようで、曲の間でのトークでは当大社に参拝されたことも盛り込まれていた。

今後益々の御活躍をお祈り致しております。



(続)



283

いしただし



福津市在自の金刀比羅神社の絵馬を紹介しているが、今回は軍艦「浪速」。

彩色は白黒で、構成としては平面的である。二本マスト、中央に煙突一本、描き方にもよろうが、あまり軍艦らしい雄姿の感じがしない。しかし浪速はなかなかの艦で、その戦歴はすばらしい。三、七〇九t、水線長九十一・四四m、速力十八kt、主砲二六cm二門、副



町名には浪速町と難波町の一つがある。日本へ回航された浪速は、常備艦隊に編入され、朝鮮、清国(中国)およびロシア・ウラジオストック等を航海し明治二十六年(一八九三)のハワイ政変にも居留民保護で派遣され遠洋航海に従事した最初の日本軍艦である。日清戦争では吉野

砲六門を備えている。竣工は明治十九年(一八八六)、英国・アームストロング社である。特色は頑丈な防護用甲板を有し、強大な大口径砲を持っている。艦名は現在の大阪市域の古称である。神武紀に、東征の折り難波之崎に至った時、その潮流に弄されたので、この地を浪速または浪華と名づけ、それがのちに難波に転訛したという。大阪には浪速区があり、

町名には浪速町と難波町の一つがある。日本へ回航された浪速は、常備艦隊に編入され、朝鮮、清国(中国)およびロシア・ウラジオストック等を航海し明治二十六年(一八九三)のハワイ政変にも居留民保護で派遣され遠洋航海に従事した最初の日本軍艦である。日清戦争では吉野

(四、二二五t)とともに、第一遊撃隊として出撃している。明治二十七年七月二十五日には、朝鮮の豊島沖で、清国艦隊と交戦し「広乙」を撃破して自沈させ、「操江」を捕獲という戦果をあげている。浪速は日清開戦前英国旗をかかげたイギリス人も乗船、それに清国兵一〇〇〇人、野砲十四門を積んでいた運送船高陸を日本側の指示に従わず撃沈している。その時の浪速の艦長が後に日本海海戦に大勝した東郷平八郎である。浪速の艦長の時は大佐であった。

国際問題となつたが、日本側の主張が認められ、問題は回避された。九月十七日黄海海戦では日本軍艦十二隻、清国北洋

国際問題となつたが、日本側の主張が認められ、問題は回避された。九月十七日黄海海戦では日本軍艦十二隻、清国北洋



属し本隊を援けて戦鬪を有利に展開し、また逃走する敵を捉えてこれを撃滅。さらに陸軍の山東半島攻撃、澎湖島占領に協力。米西戦争の際にはホンコン、マニラなどに派遣され在留邦人の保護にあつた。

### 神宝館特別展 「宗像大社刀剣展」のご案内

現在、当大社神宝館で御祭神へ奉納された刀剣を公開しております。刀匠の技の結晶を皆様是非ご覧下さい。

- ◆会期 11月24日(日)まで
- ◆時間 午前9時～午後4時半 (入館は4時まで)
- ◆会場 宗像大社神宝館1階展示室
- ◆拝観料 大人 500円、大学・高校生 300円、中・小学生 200円
- ★15名以上は1名に付100円引

※展示替え作業のため、平成25年11月25日・26日は、館内の一部をご覧いただけません。詳しくは宗像大社0940-62-1311へお問い合わせ下さい。

艦隊は十四隻、その中には甲鉄砲塔艦(戦艦)定遠、鎮遠は七、三〇〇tの巨艦であった。日本は黄海海戦で大勝。北洋艦隊の崩壊とつづく。この浪速については江川達也の「日露戦争物語」(天気晴朗ナレドモ浪高シ)第十巻にもくわしく描かれている。

た。日露戦争では第二艦隊第四戦隊に編入されて、三十七年二月の仁川沖海戦、同年八月の蔚山沖海戦、三十八年五月の日本海海戦に主力艦隊を援けている。

明治末に「浪速」「高千穂」の二艦は機雷施設の装備をする計画であったが、明治四十五年(一九一三)七月十八日、北海道沿岸で座礁沈没した。はなばなしい戦歴に似やはずおわりは、あつけない結末であった。(参考文献・日本軍艦百選)





# 宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



北九州市 八幡西区 豊田 光子  
誘はれて入りたる傘にこの夕べ知りたくもなき裏話聞く  
人との付き合いには難しいことも多い。儼然とした作  
者が見えてくるよう。

うきは市 浮羽町 向 則正  
この町へ移住して来て五十年たまさかに聴く大分弁うれし  
故郷の言葉に懐かしく嬉しくなる作者。初句に浮羽町と入れては。

福津市 若木台 山崎 公俊  
樹皮すべて剥がれバクチの木は立てり教訓のためか宮の庭にあり  
バクチの木は(博打の木)なのだろう、教訓かと思う作  
者が面白い。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ  
降り続く雨のあがりて陽のさしぬ色とりどりのコスモスの花  
雨後の光のなかで咲くコスモスに感動した作者。結句  
(〜の花に)に。

宗像市 土穴 山本 静子  
見はるかす大村湾は入りくみて彩ふかき藍・魅つつを下る  
大村湾の美しさに魅せられた作者だろう。四句(藍色  
深し)と切りたい。

宗像市 多禮 早川 祥三  
君だけが風景のなか色をもつ砂絵の風にかざす日の夏  
上の句がとても良い、下の句は「君」の居る場を読者に  
分かるような描写にして。

福津市 中央 池浦千鶴子  
お札よりカードでふくらむ財布持ち暑き秋の日買物にゆく  
行きつけのお店のポイントカードで膨らむ財布を詠  
み、ユーモアが滲む。

宗像市 日の里 大和美由紀  
やはらかき朝の光に穂を解きし庭の薄は白く輝く  
薄を美しく丁寧に詠んだ歌。三句の(穂を解きし)は作者ならではのもの。

宗像市 田久 巻 桔梗  
職人のうでのたしかさやすものの徳利にちやうど一合はいる  
徳利に丁度一合入るところに感動した作者。安物に代わる言葉を。

宗像市 池田 森 龍子  
走り根の顔出す庭に陽の没れば四つん這いになりて草取る  
走り根、四つん這いなど具体的な言葉が草むしりに頑  
張る作者を余さず伝える。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦  
巢作りの小鳥の一途さ見るたびに安住しているわが身とおもう  
巢作りをする小鳥の一途さに励まされ、意欲を持たねばと思う作者だろう。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範  
みあれ祭道の駅から眺むれば玄界灘に数百の船  
海上パレードが素直に詠まれている。四句は(玄界灘ゆくと動きを出したい)。

福津市 若木台 野間 精一  
猪威しの音遠くより聞こえる涼しき秋の夜更けとなりぬ  
残暑が長く続いたが、ようやく涼しくなった。猪威し  
の音がいかにも涼しげだ。

◆選者詠  
爵位などでもど所詮は芋のこと男爵芋ゆでコロケつくる  
夜の部屋にためいきほどの小さき音たてて散りたり瓶にさす百合

宗像市 日の里 石松 弘次  
落雷や四囲を木霊まし去りにけり

宗像市 多禮 早川 祥三  
禊秋のゆれる水面を風渡る

宗像市 武丸 白土 凌一  
栗食べて名月見らん秋の空  
宗像市 日の里 花田いつ枝  
昨日より稜線はきと朝の冷

## 第六〇〇回 俳句作品集

1日	月次祭 午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭 宗像護国神社 月命日祭
	午前11時～ 総社祭、浦安舞奉奏
3日	明治祭 午前10時～
15日	月次祭 併 七五三祭 午前10時～ 総社祭・高宮祭、第二宮・第三宮祭
23日	新嘗祭 午前11時～ 豊栄舞奉奏

## 編集後記

当大社では現在、約四十年振りとなる、辺津宮本・拝殿の大規模な修復を行っており、仮本殿にて御参拝頂いております。御参拝の方のなかには御本殿でお参り出来なくて残念との声が聞かれます。ですが、逆に仮本殿は今しかないです。修復の終える来年十二月には、新しく蘇った本殿へと御祭神に御戻り頂き、仮本殿はその役目を終えます。次回はさらに四十年後かもしれません。宗像の秋を彩る西日本菊花大会が、約三千鉢、多種多様な菊の花が境内に展示され、本年も盛大に開催されます。出品の方々に話を伺うと、近年の異常気象、多発する自然災害、大型台風の影響等により菊の生育状況は芳しくないとのこと。それでもなんとか菊花展には間に合わせるよ、と頼もしい言葉を頂きました。▼仮本殿と菊花展、今しかない宗像大社の秋を感じて頂ければと存じます。(鈴)

発行所  
宗像大社社務所・宗像会  
住所 千八一一三五〇五  
福岡県宗像市田島三三三  
電話 (〇九四〇)六一二二二(代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕  
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行  
定価1年送料共 1,000円